

図書館へ行こう！

学生時代、私は、毎年夏の初めになると、猛烈に読書欲がわいて来たものだった。長い梅雨が明け、空が夏の色合いを帯びるこ

ろ。…使い切れないくらいたくさん読んだ時が、今、自分の前に広がっている。 坪内祐三「夏の読書」(『読書のすすめ』岩波文庫)

今年も暑い季節がやってきました。地を這う熱風、容赦ない陽射し、逃れるように入った屋内の、エアコンの匂い…夏は始まったばかりです。みなさんにとって有意義な夏になりますように、図書館もお手伝いをしていきたいと思っています。

先生方おすすめの1冊

国語科 満行幸博先生のおすすめ

芥川龍之介著『地獄変』



本朝第一の絵師と言って憚らない傲慢な良秀には、美しい娘が一人いた…。

中学時代にこの本を読んで、古めかしい言葉に閉口しながら、またなんと惨い話だなと思った。高校で『羅生門』を

を習い、小説にはテーマがあることを知り、『地獄変』のテーマは何かと再度読み直した。大学では、芸術(美)と倫理の矛盾・葛藤について友達と語り合った。社会人になって、良秀が私の中にいることを感じはじめた。

傑作と言われる文学作品には、読むたびに新しい発見がある。また、読む年齢、境遇に応じて味わいも変わってくる。若いときには、様々なジャンルの本に触れて、多読してほしいが、そのうち繰り返し読める一冊の本にも出会ってほしい。



地歴科 又江原 充先生のおすすめ

暉峻淑子著『豊かさとは何か』

年末年始にかけて読んだ本の1冊です。

豊かさとは何か。いろいろな答えが出てくる問いだと思います。ある人は、お金に困らない生活である、と。またある人は、飽食の世の中である、と。

高校地理のなかで、先進国と途上国の経済格差を取り上げる単元があります。

先進国の人々は所得が高く、食事に困ることもなく、上下水道が整備された衛生的な生活を日々送っています。

こうした「豊かな」先進国は、北半球に集中しているとされています。

一方、途上国の人々はその日暮らして、食事にありつけることも大変で、劣悪な環境での生活を強いられています。こうした「貧しい」途上国は、南半球に多いとされています。

この本の著者である暉峻淑子(てるおか いつこ)先生は、名前の通り日本人です。世界的に先進国とされる日本人が「豊かさとは何か」というタイトルの新書を書いたことに興味を持ちました。読む前は、「カネやモノではない、ココロが大切だ」という精神論かと思っていました。ところが、実際は非常に考えさせられる内容でした。EC(現在のEU)最大の工業国である旧西ドイツの暮らしぶりや社会のしくみなどを多数盛り込んでいます。まさに豊かさとは何かを読者に問いかけています。

この本が世に出されて30年以上が経っています。にもかかわらず、年末の書店に積まれていました。それだけ、世の人々の注目を集めている本だと言えます。著者からの問いかけに、この本を手にとった皆さんが、自分なりの意見や考えを、じっくり時間をかけて出してほしいと思います。



夏休み特別貸出のお知らせ

①期間…7/6(金)から

②冊数…一度に10冊まで

③返却期限は8/29(水)

※返却すればそのぶん何冊でも借りられます！

※最大55日間の利用が可能です

この機会に長編小説や新書などにじっくり取り組み、すこし背伸びした読書をしてみましょう。本の中には、皆さんの心を揺さぶる出会いがきっと待っているはずです。

注1) 課題図書のうち、全国共通図書の貸出し期限は7日間です。

注2) 予約が入っている図書は、貸出し期限を14日間とします。

注1・注2とも、休館期間(8/8~16)は日数として数えません。